

第 4 章

岡山県小学校長会の歩み



岡山県小・中学校長会連絡協議会
教育課題対策委員協議会



岡山県小・中学校長会連絡協議会
学校経営委員協議会



岡山県小・中学校長会連絡協議会
調査研究委員協議会

(1) 令和6年度 事業報告

①岡山県小学校長会（事業概要）

令和6.4.5 第1回幹事会	第1回理事会の原案審議（令和5年度決算・令和6年度活動方針案及び予算案）、令和6年度会長・副会長・幹事長・幹事・特任幹事の業務分担等
4.15 第2回幹事会	小学校長会会計・積立金等の監査
4.16 令和5年度会計監査（小）	第1回理事会並びに総会の議案及び運営等について検討
4.23 役員候補推薦委員会 第1回理事会	令和6年度役員候補者の資格審査 新年度役員承認等、令和5年度決算審議、令和6年度活動方針、令和6年度事業計画・予算案審議、規約改正案審議
5.10 第3回幹事会	小・中連絡協議会令和6年度活動方針、会報・きび路計画（案）、県大会運営等について検討
5.14 岡山県小学校長会総会・研修会（ハイブリッドオンライン開催）	令和5年度決算審議、令和6年度活動方針案・予算案等承認、研修会「人生100年時代～昭和に置き忘れて来たもの？～：元山陽放送アナウンサー 濱家輝雄氏」
5.17 第1回研修・広報部会	会報・きび路・HP等の計画検討
5.23 全連小理事会	役員選出、総会議案審議
5.24 全連小総会	決算承認、全連小活動方針、各部の活動、予算等
5.31 県大会津山大会表敬訪問	津山市役所・津山教育事務所訪問
6.10 第4回幹事会	支部長会提案事項等について検討
6.18 分科会中間研修会	県大会分科会提案発表原稿の確認
6.27 第1回支部長会	令和6年度小・中連絡協議会活動方針・予算・各委員協議会の活動計画案等について審議
7.16 第5回幹事会（勉強会）	人事・給与・学校管理・研修等の課題について県教育委員会教職員課より説明を聞き懇談
7.22 岡山県幼・こ・小・中・高・特別支援学校校長連絡協議会	県教育委員会等への要望等について状況報告及び協議
7.25 ブロック別協議会（津山）	ブロック副会長・支部長・理事等参加
7.26 第1回中国地区理事会（山口）	山口大会等について審議、各部に分かれて情報交換
7.30 ブロック別協議会（倉敷）	ブロック副会長・支部長・理事等参加
8.5 ブロック別協議会（岡山）	ブロック副会長・支部長・理事等参加
8.6 第6回幹事会	第2回小・中協幹部・理事協議会議題について検討
8.23 第2回研修・広報部会	県大会提案発表原稿の最終校正、会報の内容検討

9. 5 第7回幹事会	第2回支部長会議題・三地区報告等について検討
9.18 第8回幹事会	第2回支部長会議題・県大会動線・令和7年度行事予定等について検討
9.26 第2回支部長会 (オンライン開催)	小中協各委員会より活動報告及び依頼、県大会津山大会等について審議
10. 24～25 第76回全国連合小学校長会 研究協議会徳島大会	小川泰永会長以下39名が参加
10.30 会計監査(中間)	令和6年度上半期会計監査
10.30 第9回幹事会	県大会動線等最終確認、令和7年度中国大会岡山大会司会者・提案者等打合せ会の内容検討
11. 7 第2回中国地区理事会(山口)	山口大会等について審議、情報交換
11. 8 第71回中国大会山口大会	午前：開会式・講演 午後：10会場に分かれて研究協議(13分科会20提案) 会場：K D D I 維新ホール他
11.22 令和6年度県大会津山大会	午前：開会式・講演「身近な建築から知る郷土の魅力：作家・写真家・建築家 稲葉なおと氏」午後：5会場・10分科会に分かれて研究協議 会場：津山文化センター他
11.28 令和7年度中国大会岡山大会 司会者・提案者等打合せ会	令和7年度中国大会に向けて提案者・司会者・支部長等で打合せ
令和7. 1. 8 第10回幹事会	第3回支部長会議題等について検討
1.14 第3回研修・広報部会	今年度の反省、令和7年度会誌・会報の編集等について審議
1.16 第3回支部長会	小・中協各委員会活動報告及び県大会・中国大会等について審議
2. 7 第3回中国地区理事会 (オンライン開催)	中国大会山口・岡山・広島大会について審議、情報交換
2.10 第11回幹事会	令和7年度活動方針案・予算案について検討
2.28 役員候補推薦委員会 第2回理事会	令和7年度役員候補者の資格審査 令和7年度活動方針案・組織づくり・令和6年度会計報告等について審議
3.11 第12回幹事会	今年度の反省、令和7年度活動方針案・予算案・総会の運営等について検討

②岡山県小・中学校長会連絡協議会（主要事業概要）

令和6.4.16	小・中学校長会連絡協議会会計監査	小・中学校長会監査による監査
5.15	第1回小・中協事務局役員会	令和6年度活動方針案の検討
5.21	第1回幹部・理事協議会	令和5年度決算・令和6年度活動方針案及び予算案審議
	第1回教育課題対策・学校経営・調査研究委員協議会	教育課題対策・学校経営・調査研究の各委員協議会活動内容の決定
5.24	速報「No.1」発行・送付	令和6年度活動方針・活動内容等
6.14	第2回教育課題対策委員協議会	要望内容及び分析分担・方法について検討
	第2回調査研究委員協議会	調査内容及び分析分担・方法について検討
	第2回学校経営委員協議会	執筆内容の確認及び校正分担の詳細等について検討
8.2	県教育委員との懇談会	県小・中学校長会幹部役員と県教育委員との懇談
8.26	第2回幹部・理事協議会	令和7年度教育関係予算・年度末人事・給与改善等についての要望案等の審議
8.29	速報「No.2」発行・送付	県・市町村教育委員会等への要望内容等
9.5	教育事務所との懇談会（岡山ブロック）	教育課題をもとに懇談（副会長・支部長・代議員等）
9.5	「調査研究のまとめ」データ版をホームページに掲載	アンケートの集計結果及び考察に関する報告
9.13	教育事務所との懇談会（倉敷ブロック）	教育課題をもとに懇談（副会長・支部長・代議員等）
10.21	教育事務所との懇談会（津山ブロック）	教育課題をもとに懇談（副会長、支部長、代議員等）
10.29	県教育委員会教育長へ提案	令和7年度教育予算・年度末人事等について提案
(10～12月)	市町村教育長への提案活動	各支部小・中学校長会役員が教育予算や年度末人事等について提案
11.15	県議会文教委員長へ陳情	現場の状況をもとにした令和7年度教育予算陳情
12.6	第2回小・中協事務局役員会	令和7年度活動方針・活動内容案の検討
令和7.1.21	第3回教育課題対策委員協議会	令和6年度活動の反省と次年度への課題等協議
	第3回学校経営委員協議会	令和6年度活動の反省と次年度への課題等協議
	第3回調査研究委員協議会	令和6年度活動の反省と次年度への課題等協議
1.21	「実践事例集」発行・送付	「生きる力を育む教育の推進」第43集発行
1.29	第3回小・中協事務局役員会	第3回幹部・理事協議会議題等について検討（令和6年度決算及・令和7年度予算案・次年度への課題等）
2.4	第3回幹部・理事協議会	教育課題対策・学校経営・調査研究の各委員協議会の活動・経過報告及び次年度への課題等審議
2.6	速報「No.3」発行・送付	各委員協議会令和7年度活動方針等

関係者団体への派遣

令和6.5.23	全連小	第247回理事会	小川会長、小山幹事長出席
5.24	全連小	第76回総会	小川会長、藤原・金盛・藤本・畝本副会長、小山幹事長
6.3	全連小	事務担当者会	中尾事務局長出席
6.13	全連小	合同部会・合同委員会	八田幹事出席
6.24	全連小	教育課題委員会	八田幹事出席
7.2	全連小	広報担当者連絡協議会	花房幹事出席
7.10	全連小	小学校長会長連絡協議会	小川会長出席
7.12	全連小	基金管理運営委員会	奥橋幹事出席
7.26	第1回中国地区理事会・研修会（山口市）	小川会長、藤原副会長、小山幹事長、矢部・八田・奥橋・花房幹事、中尾事務局長出席	
9.30	全連小	教育課題委員会	八田幹事出席
10.11	全連小	対策・調研担当者連絡協議会	八田・奥橋幹事出席
10.23	全連小	第248回理事会	小川会長、小山幹事長出席
10.24～25	第76回全国連合小学校長会研究協議会徳島大会	小川会長以下39名出席	
10.31	全連小	教育課題委員会	八田幹事出席
11.7	第2回中国地区理事会・研修会（山口市）	小川会長、藤原・金盛・藤本・畝本副会長、小山幹事長、八田・奥橋・花房幹事、中尾事務局長出席	
11.8	第71回中国地区小学校長会教育研究大会山口大会（山口市）	同上	
11.26	全連小	教育課題委員会	八田幹事出席
令和7.1.15	全連小	基金管理運営委員会	奥橋幹事出席
2.7	第3回中国地区理事会・研修会（オンライン開催）	小川会長、小山幹事長、八田幹事、中尾事務局長出席	
2.13～14	全連小	第249回理事会	小川会長、小山幹事長出席

陳 情 ・ 提 案 活 動

- | | | |
|---------|------------------------------|-------------------------------------|
| 令和6.8.2 | 県教育委員との懇談会 | 教育の今日的課題について懇談・協議
(小・中校長会役員9名出席) |
| 9.5 | 教育課題を基に協議(岡山ブロック) | 岡山教育事務所長と懇談(小・中学校長会役員) |
| 9.13 | 教育課題を基に協議(倉敷ブロック) | 岡山教育事務所長と懇談(小・中学校長会役員) |
| 10.21 | 教育課題を基に協議(津山ブロック) | 津山教育事務所長と懇談(小・中学校長会役員) |
| 10.29 | 令和7年度教育関係予算並びに令和6年度年度末人事について | 県教育長へ提案活動
(小・中校長会役員9名出席) |
| 10月～12月 | 令和7年度教育関係予算について | 市町村教育委員会教育長へ提案活動
(各市町村校長会長が提案活動) |
| 11.15 | 令和7年度教育予算に関する陳情 | 県議会文教委員長へ陳情(小・中校長会役員6名出席) |

刊 行 物 等

- | | | |
|----------|-----------------------------------|-------------|
| 令和6.4.30 | 岡山県小学校長会「速報14」発行 | (会員メール送付) |
| 5.24 | 小・中学校長会連絡協議会「速報」No.1発行 | (会員メール送付) |
| 5.24 | 小・中学校長会連絡協議会アンケートを県小学校長会ホームページに掲載 | (web上で回答) |
| 6.12 | 「会報」第93号発行 | (会員メール送付) |
| 8.29 | 小・中学校長会連絡協議会「速報」No.2発行 | (会員メール送付) |
| 9.6 | 「会報」第94号発行 | (会員メール送付) |
| 9.5 | 「調査研究まとめ」発行 | (ホームページに掲載) |
| 11.22 | 令和6年度岡山県小学校長教育研究大会津山大会要項配付 | (会員配付) |
| 令和7.1.9 | 「会報」第95号発行 | (会員メール送付) |
| 1.21 | 実践事例集第42集「生きる力を育む教育の推進」発行 | (各校1冊配付) |
| 2.6 | 小・中学校長会連絡協議会「速報」No.3発行 | (会員メール送付) |
| 2月下旬 | 「きび路」第61号発行 | (ホームページに掲載) |

(2) 令和6年度 各委員会等の活動報告

教育課題対策委員協議会

令和6年度岡山県小・中学校長会連絡協議会幹部・理事協議会の活動方針を受け、「学力向上及び生徒指導上の課題解決に向けて、『チームとしての学校』が機能するための教育条件の整備」、「施設・設備の改善、教材等の整備・拡充」等の改善・充実を目指して活動した。

1 本年度の活動内容

- (1) 提案・陳情項目の策定及び関連調査
- (2) 県教育委員、岡山教育事務所との意見交換会
- (3) 県教育委員会、県議会等への提案及び陳情活動

2 活動の経過

- (1) 5月21日（火）

第1回小・中協幹部・理事協議会及び第1回教育課題対策委員協議会

提案・陳情項目については、次の5項目を重点的な扱いとし、関連する点について調査研究委員協議会と連携して調査を行うことにした。

〈重点項目〉

- ① 学力向上及び生徒指導上の課題解決に向けて、「チームとしての学校」が機能するための教育条件の整備
 - ・教職員定数、学級編制等の改善
 - ・子どもと向き合う時間の確保と長時間勤務の解消のための施策の充実
 - ・教員の資質能力の向上に向けた取組
 - ・いじめ・不登校・暴力行為等に対する施策の充実
 - ・特に支援を必要とする児童生徒に対する施策の充実
 - ・地域の実情に応じた小規模校の教育諸条件の改善
 - ・家庭・地域社会の教育力の充実
- ② 施設・設備の改善、教材等の整備・拡充
- ③ 職責に見合った処遇改善の実現
- ④ 「教職員の育成・評価システム」及び「人事評価制度」の円滑な運用と継続的な検

証と改善

- (2) 6月14日（金）

第2回教育課題対策委員協議会

調査研究委員協議会と合同で関連調査アンケートの内容や集約後の分析とデータの生かし方について協議した。

- (3) 6月上旬から7月中旬

調査研究委員協議会と連携し、アンケート調査を実施し、回答内容の点検を行った。

- (4) 8月26日（月）

第2回小・中協幹部・理事協議会提案・陳情案を検討し提案書等を作成した。

- (5) 提案及び陳情活動

8月2日 県教育委員との懇談会

9月5日 岡山教育事務所との懇談会

10月29日 県教育委員会教育長への提案

11月15日 県議会文教委員会への陳情

その他、市町村教育委員会への提案活動を実施した。

- (6) 2月4日（火）

各支部等の意見を元に方針案を作成し、幹部・理事協議会で次年度の方針を決定した。

3 活動の成果と課題

「調査研究のまとめ」をもとに、意見交換会や提案・陳情活動を行い、数値に裏付けされた学校の現状や課題を具体的に伝えることができた。特に今年度は、重要な柱に関する「人材の確保に向けて」、「働き方改革に係る行事精選について」、「中学校における休日部活動の段階的な地域移行の課題解決に向けて」等について、重点的に提案を行うことができた。

岡山県教育委員会では、「第3次岡山県教育振興基本計画」の計画期間が令和6年度で終了することから、「第4次岡山県教育振興基本計画」の策定を行っている。令和7年度から示される施策に注視し、今後も、県全体の声に耳を傾け、県内における教育諸条件の地域間・学校間の格差をなくしていくことを基盤としつつ、山積する教育課題の解決・改善に努めたい。

学校経営委員協議会

令和6年度岡山県小・中学校長会連絡協議会の活動方針を受け、生きる力を育む学校経営の推進と運営組織の充実を目指し、活動に取り組んだ。

1 活動の内容

前年度に引き続き、令和6年度「生きる力を育む学校経営の推進」第43集を発刊・配付して、県下の小・中学校における学校経営の充実・向上に寄与したいと考えた。

実践事例集は、次の活動方針と実践執筆の視点の中から、各校の課題に対して学校や中学校区、地域の特色を生かし、校長として指導力を発揮しながら取り組んだ実践事例を紹介いただくことにした。

2 活動方針及び実践執筆の視点

生きる力を育む学校経営の推進と
運営組織の充実

- (1) 生きる力を育む教育課程の編成・実施評価・改善
 - ① 確かな学力を育む授業の創造と評価
 - ② 道徳教育・人権教育をはじめとする心の教育の一層の充実
 - ③ 食育・体力向上の取組等、健康教育の推進
 - ④ 評価・改善
- (2) 特別支援教育と生徒指導の充実
 - ① 特別支援教育の視点を生かした取組
 - ② 積極的な生徒指導の取組
- (3) 小・中学校連携と地域協働の充実
 - ① 学力向上等一貫した教育を目指した小・中学校連携の取組
 - ② 健全な児童生徒育成のための地域協働の取組
- (4) 教職員の人材育成
 - ① 新採用等、若手教員の人材育成
 - ② ミドルリーダーの人材育成、学校の組織力向上の取組
- (5) その他
 - ① 働き方改革
 - ② 特色ある学校づくり

③ GIGAスクール構想の推進 など

なお、執筆内容は各学校長が学校経営を行う上で参考になるよう、執筆の視点に基づいた具体的な内容を記載することとした。

3 活動の経過

- 5月15日 岡山県小・中学校長会事務局会
- 5月21日 第1回幹部・理事協議会並びに第1回学校経営委員協議会
 - 実践事例集の編集方針等の決定
 - 提言・事例の執筆者の推薦と確認
- 6月14日 第2回学校経営委員協議会
 - 提言・事例執筆者の確認
 - 具体的な活動内容の検討・分担
- 6月17日 執筆者へ要領等送付（11/20締切）
- 8月26日 第2回幹部・理事協議会
- 11月29日 令和6年度執筆者氏名報告締切
- 12月6日 岡山県小・中学校長会事務局会
- 1月21日 第3回学校経営委員協議会
 - 本年度の活動の反省
 - 次年度の課題と活動内容
- 1月29日 岡山県小・中学校長会事務局会
- 2月4日 第3回幹部・理事協議会
 - 次年度方針提案
 - 実践事例集発送

4 終わりに

小学校10名、中学校8名の校長先生方には、実践・執筆の視点に基づき、校長がリーダーシップを発揮しながら組織的に取り組んだ具体的な実践事例をご執筆いただいた。

執筆内容からは、校長が明確なビジョンを掲げ、学校組織の活性化を図り、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努めていく大切さを改めて感じる事ができた。執筆へのご協力にお礼を申し上げたい。

また、巻頭には、各界からお二人の有識者の方々に貴重なご提言をいただいた。

この実践事例集を県下小・中学校の各校長先生方の学校経営にお役立ていただきたい。

調査研究委員協議会

令和6年度岡山県小・中学校長会連絡協議会の活動方針を受け、小・中合同で調査研究委員協議会を設け、調査研究に取り組んだ。

この調査は、学校現場の現状を把握して学校経営の改善に役立てるとともに、関係方面への提案活動の資料として活用している。

1 調査についての基本的な考え方

平成19年度から、調査研究委員協議会と教育課題対策委員協議会が連携してアンケート調査を進めている。今年度も同様に実施し、データを提案活動に生かすために、新たな項目や提案活動に必要な内容を検討し、加えた。

今年度は、『「次世代の学校」指導体制の基盤整備について』の中で調査していた「GIGAスクール構想の実現に向けた課題について」は設問を拡充し、「一人一台端末の使用状況」を詳しく調査したほか、昨年度追加した小学校での「教科担任制について」、中学校での「休日部活動の地域連携・地域移行について」を含め、各項目で経年比較ができるようにした。

2 調査内容

〈特別支援教育について〉

- ・通常学級での支援の状況と課題
- ・通級指導教室での指導の状況と課題

〈学力向上の取組について〉

- ・教育効果を上げるために重要なこと

〈「次世代の学校」指導体制の基盤整備〉

- ・必要と考える専門性のある職種
- ・教員業務支援員の配置
- ・「GIGAスクール構想」実現への課題
- ・一人一台端末の持ち帰り及び授業以外での使用状況

〈働き方改革について〉

- ・教職員が多忙と感じていること
- ・学級担任一人当たりの授業持ち時間数
- ・常勤講師の未配置状況や校内対応
- ・多忙解消のために行政等に望みたい対策

〈生徒指導課題について〉

- ・いじめや暴力行為の解消に有効な対策
- ・不登校児童生徒への対応に有効な対策
- ・SCの配置状況と希望する配置時間数

〈教科担任制について〉

- ・実施状況、メリット・デメリット

〈休日部活動の地域移行等について〉

- ・兼職兼業での指導希望、希望する地域
- ・実施上考えられる問題点

3 活動の経過

5月15日 ①小・中事務局会で調査方針を確認

5月21日 ①幹部・理事協議会並びに①教育課題対策・調査研究委員協議会で調査内容等について決定

5月24日 ホームページ上でのアンケート調査開始

6月14日 ②教育課題対策・調査研究委員協議会で調査結果の分析等について協議

6月27日 小学校支部長会で調査内容の説明

7月2日 中学校代議員会で調査内容の説明

7月中旬～集計データの分析

8月26日 ②幹部・理事協議会で分析文の検討・確認

9月下旬 「調査研究のまとめ」をホームページ上にアップ

1月21日 ③調査研究委員協議会で次年度の調査項目を策定

1月29日 ③小・中事務局会で次年度案検討

2月4日 ③幹部・理事協議会で次年度の方針を決定

4 活動の成果と課題

県下すべての校長先生方のご協力により、経年のデータとの比較分析や、新たな教育課題についての調査結果を貴重な資料としてまとめることができた。

今後も、教育課題を的確に把握しながら調査項目の修正・追加等を行い、さらに有意義な調査研究を進めていきたい。

研修・広報部

岡山県小学校長教育研究大会津山大会は、津山支部が運営の中心となり、津山ブロックの校長先生方のご協力により、盛大に開催することができた。分科会の協議については、5つの会場に分かれてグループ協議を行い充実した内容となった。研修・広報部では大会の開催に向けて提案原稿作成等の準備活動を進めるとともに、令和7年度に開催する中国大会岡山大会（兼県大会倉敷大会）の諸準備を行った。

また、広報部は理事・専門委員による「会報」及び「きび路」の編集活動を行うとともに、ホームページ担当者が、岡山県小学校長会のホームページのトップ画の更新等を行った。

1 研修部の取組

- (1) 研修部会の開催
5月17日 8月23日 1月14日
- (2) 令和6年度県大会津山大会分科会中間研修会の開催 6月18日
- (3) 令和7年度中国大会岡山大会（兼県大会倉敷大会）司会者・提案者等打合会の開催 11月28日
- (4) 岡山県大会津山大会の概要
津山大会は、支部による地元開催最後の県大会（岡山・倉敷での中国大会を除く）として津山文化センターを主会場に開催した。分科会は、5つの会場に分かれ5領域10分科会、10名の校長先生にご提案いただき、それぞれの協議の柱に沿って、活発なグループ協議が行われた。各分科会の提案発表に向け、6月には研修・広報理事等による分科会中間研修会を開催したり、協議のグループの構成を工夫したりするなど、研究・実践が深まるよう取組を進めてきた。また、円滑に分科会での協議を進めることができるよう、当日研修・広報理事が運営について説明を行った。

① 大会主題及び副主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

～夢や知を育み ともに未来を拓く子どもの育成に向けた学校経営の推進～

- ② 期 日 令和6年11月22日（金）
- ③ 会 場 津山文化センター 他
- ④ 5領域10分科会

I 学校経営：組織運営、評価・改善

II 教育課程：知性・創造性、健やかな体

III 指導・育成：研究・研修、リーダー育成

IV 危機管理：学校安全、危機対応

V 教育課題：社会形成能力、自立と共生

⑤ 講 演

・ 演 題 「身近な建築から知る郷土の魅力」

・ 講 師 作家・写真家・建築家

稲葉なおと 氏

- (5) 令和7年度中国大会岡山大会（兼県大会倉敷大会）の予定

① 大会主題及び副主題

※大会主題は、県大会津山大会と同様。

【副主題】

～夢や知を育み 持続可能な社会の創造者となる子どもの育成に向けた学校経営の推進～

- ② 期 日 令和7年11月21日（金）
- ③ 会 場 倉敷市民会館 他（予定）
- ④ 令和7年度の研究の領域及び分科会
中国大会として5領域13分科会での提案発表。岡山県は5領域10分科会を担当。

I 学校経営：経営ビジョン、評価・改善

II 教育課程：知性・創造性、豊かな人間性

V 教育課題：自立と共生、社会との連携・協働

※ⅢⅣ領域は、津山大会と同様

2 広報部の取組

- (1) 広報部会・広報専門委員会の開催
5月17日 8月23日 1月14日
- (2) 会報「おかやま」の編集・発行
・第93号6月発行 ・第94号9月発行
・第95号1月発行
- (3) 機関誌「きび路」の編集・発行
・第61号 令和7年2月下旬発行
※第61号からデータでの配信とした。
- (4) 岡山県小学校長会ホームページの更新

3 活動の成果と課題

本年度も研修・広報部が一体となり、早い段階での提案発表の原稿の推敲等県大会開催に向けた準備を行った。また、役割として大会当日の分科会の運営に関する説明を行った。提案原稿も校長会の方針である、個人ではなく支部等組織としての取組の発表であり、充実した研修となった。次年度の中国大会に向けての準備を計画的に進めていきたい。

令和6年度 「特任幹事」として幹事会に参加して

一人ひとりが大切にされた温かい雰囲気の中で

瀬戸内市立裳掛小学校長

川 埜 誠

令和6年4月5日、この日は初めて幹事会に出席した日です。参加を通して、何を協議し、どんな発言をしたかは記憶に残っていませんが、会が醸し出す雰囲気がとても温かったことだけは、強く印象に残っています。

特任幹事の3人以外は、全員、岡山市内の校長先生方と事務局の方です。「岡山市以外の情報が分からないので、何でも言ってくださいね」「よりよい岡山県小学校長会にしていきましょう」と、温かく受け入れてくれ、発言しやすい雰囲気を作ってくださいました。何よりも一人ひとりが大切にされている空間が心地よかったです。

その後、今に至るまで、数回、幹事会に参加しましたが、温かい雰囲気は変わっていません。この雰囲気があるからこそ、本会の目的「県下小学校長・義務教育学校長相互の緊密な協調を保ち、小学校教育の充実発展に寄与する」を達成できるものと確信しています。

十分な発言はできなかったかもしれませんが、岡山ブロックの実態や課題について、自分が持っている知識や情報をかき集めて、意見を述べたつもりです。いづらか、県小学校長会の取組の充実発展に貢献できていたなら嬉しく思っています。

最後になりましたが、岡山ブロックからの代表として、十分な働きができなかったかもしれませんが、先生方とつながりができたこと、そして自分自身の校長としての視野を広げることができたことは財産となりました。1年間お世話になりました。心より感謝申し上げます。

万里一空の精神

津山ブロック特任幹事

西 村 欣 也

美作生誕の剣聖・宮本武蔵は、自身が長年の修行で得た精神的境地を綴った「五輪書」に、「山水三千世界を万里一空に入れ、満天地ともまとめる（世界は一つの空のもとにあり、どこまで行っても同じ世界である）」と記しています。「心迷わず精神を修養し、身体の鍛錬を極めれば目標に到達できる」ことを説いたものとされており、これが転じ、万里一空（ばんりいっくう）とは、「目標や目的に向かって、やるべきことを見失わずに努力し続けること」ことを表します。県小学校長会の幹事の皆さんには、まさしく、この精神がみなぎっています。

閑静な旧内山下小学校で開催される幹事会（本年度は年間12回開催）は、岡山市の校長先生方で構成され、それに3ブロックの特任幹事が参加します。事務局や担当幹事が準備して下さる分厚い資料をもとに、県小学校長会の活動や会合の運営、教育の諸条件整備や改善など、多岐にわたる内容について、一つ一つ丁寧に協議が進められます。役職定年が近づいた校長先生方とは思えない、凄まじい熱量での話し合いです。ただ、その仕事量は大量で激務にもかかわらず、柔和な雰囲気や笑顔、機知に富んだ会話からは余裕すら感じられ、驚かされます。幹事会以外にも支

部長会、各部会、県外の会合などにも出席されており、本当に凄いことです。

幹事の校長先生方には、頭上に広がる空のように、政令指定都市と岡山県という行政の枠はありません。岡山のよりよい明日の教育への熱い思いだけが広がっています。一歩先を見つめ邁進する力は、県小学校長会の原動力です。この力は、本年度の研究大会（津山）の準備・運営を担ってくださった津山ブロックの校長先生方、参加してくださった県内の校長先生方からも感じ取ることができました。万里一空の精神で多くの校長先生方が県小学校長会を支えてくださっていることに気づけたのは、特任幹事として関わらせていただいたからこそです。皆さんに心から感謝するとともに、微力ながら自分も貢献したいという思いを強くすることができた一年でした。

経験を通して見えること

倉敷ブロック特任幹事

片岡 学

今年度、特任幹事を務めさせていただくという貴重な機会を与えていただきました。今までは、県小学校長会といえば、総会と研究大会に参加することと地区の校長会で取り組みについて教えてもらう程度の知識しかありませんでした。申し訳ありません。

そんな私が、毎回、限られた時間の中で、膨大な資料を読み込み、検討し、方向性を決めていくという幹事会に参加することとなり、目が回るような日々だったことを思い出します。

ただ、そのような中で感じたことは、大きな組織を動かしていくためには、周到的計画とその判断を下した根拠を明確にしておくこと、そして、何よりも「やるぞという」強い意志をもつことが大切であることを学ばせていただきました。特任幹事は、原案をもとに意見を述べるのですが、その原案を考えるのは、幹事の方々でした。それぞれの方々も自校の学校経営がある中、県小学校長会のために日夜努力されていることを改めて知り、本当に頭の下がる思いでした。さらに驚いたことは、それだけの激務にも関わらず、話合いの中は常に笑顔であふれていることでした。自分たちのことで大変だと思うのに、初めて参加する私たちにも笑顔で分かりやすく話をしてくれ、仲間として一緒に考えていこうという姿勢で接してくださったことには感謝しかありません。改めて、自分の立場や役割を考えさせられました。そして、自分もこうした態度で人に接しようと思いました。

社会全体がコロナ禍前に戻りつつある中、現在の県小学校長会は、持続可能な組織として生まれ変わろうとしています。大きな組織を変えていくことは非常に強い意志が必要になります。岡山県下のすべての小学校のための校長会の在り方はどのようなものなのか、小川会長の強いリーダーシップのもと、よりよい方向を目指して進めてきたように思います。一人一人は小さな力でも、校長会として力を合わせて前進することの大切さを学ばせてもらい、自分自身が何をすべきかということも考えさせられた一年間だったと感じています。この貴重な経験には感謝しかありません。この経験を活かし、今現在ある事象の陰には非常に多くの人の世話になっていることを忘れず、これからも微力ながら力を尽くしていきたいと考えています。

ブロック別協議会の概要

【岡山ブロック】

- 1 開催期日 令和6年8月5日(月)
- 2 会 場 ピュアリティまきび
- 3 参 加 者 20名
- 4 開会挨拶 (金盛県副会長)
- 5 会長挨拶 (小川県会長)
- 6 自己紹介
- 7 講師紹介 (吉田備前和気支部長)
- 8 講 話
「当面する諸課題について」
岡山教育事務所 次長 藤原 哲生 様
- (1) 不祥事防止
 - ・5つの禁止行為の徹底、インターネット等を介した副業にも注意してほしい。
- (2) 人材育成・人材確保
 - ・精神疾患による病気休暇取得者が増加傾向にあり、新採用や異動1年目の教職員への配慮が必要である。
 - ・管理職選考審査受験者が減少傾向にある。女性登用の割合は高まっている。
- (3) 男性育休
 - ・取得者、かつ長期の取得者が増えている。「予約承認の手続き」について知っておく必要がある。
- (4) 長欠不登校
 - ・右肩上がりが増加している。未然防止に向け、研修パッケージ「授業の中の生徒指導の進め方」の活用等の取組をしてほしい。
- (5) 働き方改革
 - ・全国的に広がっている取組例の紹介。
- (6) その他
 - ・コミュニティスクールの活用。
 - ・放課後研修「OKAJI」の活用。等
- 9 協 議
- (1) 経過報告 (藤原副会長)
- (2) 県教委の回答
 - ・回答書を各自目通しし、内容を確認。特に意見や質問はなかった。
- (3) 協議題
 - ① 人材育成について
 - ・授業改革推進委員が配置され、担任外の教員がいない学校では、若手の育成に有効であった。もっと大きく広げるとよい。
 - ・授業改革推進チームは、地区全体の学力向上に力を入れてきたが、若手の育成を中心にきてきているチームもある。

- ・授業改革推進チームに、教頭・指導教諭だけでなく、経験豊富な退職校長が入れればよい。
 - ・若手の人材育成が今後の一番の課題。特に生徒指導力をつけていく必要がある。また、よいモデルとなるミドル世代が少ないのも課題。若手が育たず次のミドル世代になった時の教育界が心配である。
 - ・学級経営がうまくいかず、新採が辞めると言い出した。辞めさせないように負担感のあるものを全て無くし、学級経営に専念できるようにした。若い人はメンタル的に打たれ弱く、他の先生も遠慮している面がある。
 - ・負担軽減が経験不足を招き、人材育成につながらない面もある。複数担任制や人材育成専門の役職等の検討も必要。
 - ・岡山市には授業改革推進チームがない。センターのOJT担当を活用し、計画的に研修してもらっている。4年目の教員がしきり、2・3年目の教員と互いの授業を見合い、アドバイスし合っている。また、ミドルリーダーに若手の会をもつようにさせている。
- ② 特別な支援を要する児童の増加について
 - ・通常学級の中に、支援を要する児童が増加している。薬を服用していない児童も多く、対応に苦慮している。町費や市費で支援員がついているが、十分な支援は難しい。
 - ・特別支援学級をもてる力のある教員がおらず、支援級に支援員や他の教員が入るなど、全職員で児童に関わっている。
 - ・赤磐市では、2校を拠点に通級指導教室を開設。支援員を配置するも、週20時間の制限があり、十分な支援は難しい。
 - ・ここにこそしっかり予算をつけてほしい。
 - ・岡山市は支援学級数が高止まり傾向。児童の適切な学びの場を保障するには、転籍のタイミングを保護者と共有・連携することが大切である。
 - (4) その他
 - ・瀬戸内支部では、男性育休取得者が増えている。力量がある人が取得すると、児童や代員の教員が大変になる。
 - ・加賀支部に続き、玉野支部も14校が6校になる統廃合の方向性が示された。過員になった教員の異動がどうなるのか心配である。
- 10 閉会挨拶 (高瀬玉野支部長)

【倉敷ブロック】

- 1 開催期日 令和6年7月30日（火）
- 2 会場 マービーふれあいセンター
- 3 参加者 36名
- 4 開会挨拶 （藤原県副会長）
- 5 会長挨拶 （小川県会長）
- 6 自己紹介
- 7 講師紹介 （土屋支部長）
- 8 講話
「当面する諸課題について」
岡山教育事務所 次長（兼義務教育支援課長） 藤原 哲生先生

(1) はじめに
岡山教育事務所移転 県庁分庁舎へ

(2) 義務教育支援課から

① 不祥事防止

- ・ 5つの禁止行為の徹底を。
- ・ インターネット上での副業等、事前に情報が入ってくる体制づくりを。

② 人材育成・人材確保

- ・ 大学3年次チャレンジ選考を実施した。
- ・ 政府の骨太の方針において、教職員の処遇改善に係る記述が確認できる。
- ・ 異動1年目教員（含新採、新卒講師）については、6月や9・10月に病気休暇（精神疾患）取得が増加する傾向にある。普段の様子や学級経営等に注意し、必要があれば支援を。
- ・ 状況にもよるが、新採用1年目に5年生の担任をした者が、病休取得や退職をする割合が高い。
- ・ ここ数年、管理職選考審査受験者数が大きく減少している中、管理職に占める女性の割合は県目標の30%を達成している。

③ 男性育休（県目標：R7取得率15%以上）

- ・ 男性育休取得者は増加傾向。12か月以内の期間を取得する者も多い。
- ・ 代員がいない状況だが、男性の育休取得の申し出に対する対応や話し方には注意が必要。
- ・ 男性育休の予約承認の手続きについて

④ 長欠不登校

- ・ 長期欠席・不登校の未然防止の取組として、岡山教育事務所では『授業の中での生徒指導の進め方』について研修を提案しており、講師派遣も利用してほしい。
- ・ 放課後研修「OKAJI」も有効に活用してほしい。

⑤ 働き方改革～文科省資料から～

- ・ 登校時間の見直し（岡山県和気町）
- ・ 通知表の所見欄の見直し（香川県小豆島町）
- ・ 日課表の見直し（全国各地より）
- ・ 時間外業務時間の一覧表作成＝見える化
様々な取組例を、次の一手の参考にしたい。

(3) 生涯学習課から

① コミュニティ・スクール

- ・ 動画『地域とともにある学校づくり～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～』（独立行政法人教職員支援機構作成）は分かりやすく作られており、参考にしたい。

(4) その他

- ・ 岡山教育事務所の移転について

9 協議

(1) 経過報告（藤原県副会長）

(2) 本部報告【質問事項への回答】

① 学級編成や教職員定数について

- ・ 加配教員の増加、栄養教諭の定数改善等を国に要望している。

② 教科担任制や専科加配について

- ・ 令和6年度より3校以上兼務する専科加配は20コマ以上の授業を行うこととしており、負担軽減を図っている。

③ 特別支援教育、通級指導について

- ・ 通級指導教室に県費非常勤講師の配置はないが、市費で非常勤講師を配置しているところはあるように聞いている。

④ 人材確保・教員採用について

- ・ 年度当初より若干名の機動的講師を配置し、年度途中での代員措置に対応できるようにしている。
- ・ 今年度の採用試験から、大学3年生等が一次試験のうち筆記試験を受験できる制度を設けた。また、奨学金返還を支援する。

⑤ 人事評価制度について

- ・ 本制度は教職員の資質能力の向上と学校組織の活性化を図ることが目的。管理職においては日頃からの所属職員とのコミュニケーションや観察等を行い、適切なフィードバックに努めていきたい。

⑥ 再任用制度について

- ・ 県教委における60歳以降の働き方等について、情報提供パンフレットをe研修所おかやまにもアップしているのでご確認ください。

⑦ 働き方改革について

- ・ 学校だけでは解決困難な事案への支援体制として「岡山型スクールロイヤー制度」を実施している。本年5月には、「学校に対する苦情・不当な要求への対応（改訂版）」を県立学校、市町村教育委員会へ配付した。

(3) 協議題

① 働き方改革について

- ・ 学校行事の精選、保護者対応や業務の効率化を進めているが、そのためには人員の適正な配置や、保護者や地域等の理解を得ることが必要。
- ・ 働き方改革の進み具合をどのように図るかを検討する必要があるのではないかと。

- ・ 日頃から同僚性を高める取組にも留意し、心と体のバランスが保てる職場づくりに努めたい。

- ・ 考え方や日頃の行動で手本を示し教職員の意識改革を図る。できる方策を探る意識へ転換を。

- ・ 電話対応については対策を練っている学校が増えており、それぞれに効果を上げている。

② 教科担任制・専科配置について

- ・ 現状が様々なことから、専科加配の配置条件を踏まえ、教科担任制等のメリットを生かしつつ、デメリット解消についての方策を検討することが重要になる。

10 閉会挨拶（横溝倉敷支部長）

【津山ブロック】

- 1 開催期日 令和6年7月25日(木)
- 2 会 場 津山市役所2F大会議室
- 3 参 加 者 23名
- 4 開会挨拶 (畝本県副会長)
 - ・オリンピックのメダリストが、「メダルを取ってみて、初めてメダルを取るのに大切なことが分かった。人の話を聞くこと。」とコメントをした。やはり聞くことが大事。本協議会でも対話と共感をしながら、行政とも一緒になって少しでも課題解決に繋げていきたい。
- 5 会長挨拶 (小川県会長)
 - ・準備等に感謝。先ほどの話にもあったように、しっかり話を聞くことが大事。校長会もスリム化を図っている。県教委等へ生の声、切実な声を伝えていきたい。前に進めていきたい。
- 6 自己紹介
- 7 講 話
「当面する諸問題について」
～人材確保と育成～
津山教育事務所次長 田村知之先生
 - ・本当に人がいない。ペーパーティーチャー研修会の実施やチラシ配布など、地道な努力を続けている。学校訪問バスツアー(県北プログラムの学生・中・高生対象)は、多くの学生が参加する予定。
 - ・基本方針は、「未来を見据え、主体性をもった学校づくり、地域づくりの推進の支援する」である
 - ・各世代に対してのさまざまな取組を行っている。さらに、教員志望の中高生を含めた育成への支援を考えている。
 - ・管理職登用に関しても、人が枯渇していて危機的な状況。それを補う人材をどのように育成していくか。日頃の関わりや面談の中で是非働きかけをしてほしい。講師の登録状況もほぼ枯渇している。
- 8 協 議 (司会進行 松本津山支部長)
- (1) 経過報告
 - ・6月に各ブロックの要望等を説明7月教育庁より御回答があった。質問が多岐にわたるので、事前に送付済。
- (2) 協議題
 - ① 働き方改革について

- ・多岐に渡るが、結局は人。業務アシスタントの全校配置は助かっている。更なる充実を願う。
 - ・県全体としての業務のスリム化の動きは大変ありがたい。(自転車教室等)県全体で動いていくことが大変大きな力になった。このような動きを今後も続けていくことが大事。
 - ・支部の状況一覧表も効果的に使ってほしい。何の項目を盛り込むのかをこの場で話をして欲しい。(県本部)
 - ・学校だけの働き方改革は限界がある。行政の後押しが必要である。
 - ・授業改革推進リーダー、推進員の配置について研究も必要。
 - ・校務ICT化が進んでいない。自治体で差がある。整備をお願いしたい。
 - ・義務教育学校設置における効果。
- ② 定年延長、人材育成について
 - ・若い方が半数以上、多くの新採用者がいる。多くの支援がついている学校もあるが、学校によっては若手のサポート育成ができてにくい現状もある。先生になりたての人員を育てることへの有効な手立て、人員の配置が欲しい。
 - ・新採用後3年で転任すると育成が十分できない。延長をお願いしたい。
 - ・県南から遠距離通勤をしていることも多い。県南に帰りたい人が帰れない現状がある。魅力ある県北になるといいと思う。
 - ・小規模校でも休職者がでて、教頭が担任をするという事例がある。
 - ・感情労働の部分が大きい教員を、気持ちよく働ける学校にしたい。クレーム対応にスクールロイヤーが入ることを制度として考えていけたらよい。
 - ③ 支部の実情について
 - ・各支部が資料に基づき説明。
- 7 閉会挨拶 (西村特任幹事)
 - ・校長会是对話と共感、スリム化を打ち出しながら取り組んでいる。働き方改革については、このような話し合いを重ねることによって、前進すると思う。我々の今の役割は、5年10年先の学校をどのようにするかを考えて実現することだと考えている。貴重な時間だった。

(3) 会 員 の 動 静

1 教育功勞による会員の受賞

文 部 科 学 大 臣 表 彰	岡 山 市 立 福 田 小 学 校 長	小 川 泰 永
-----------------	---------------------	---------

岡 山 県 教 育 委 員 会 表 彰	鏡 野 町 立 南 小 学 校 長	畝 本 昭 則
---------------------	-------------------	---------

2 令和6年度中途新任校長

瀬 戸 内 市 立 国 府 小 学 校 長	山 地 智 子
-----------------------	---------

岡 山 市 立 足 守 小 学 校 長	八 木 信 英
---------------------	---------

倉 敷 市 立 船 穂 小 学 校 長	小 野 桂
---------------------	-------

鏡 野 町 立 大 野 小 学 校 長	勝 田 俊 行
---------------------	---------

3 令和6年度物故者

岡 山 市 立 足 守 小 学 校 長	福 田 聡
---------------------	-------

(4) 支 部 の あ ゆ み

岡 山 支 部

北1ブロック



	花房	奥山裕	高坂	大山	渡邊	安東
	平井	植山	矢野	小山	古谷	江原
奥山和		篠山		余公	半澤	岩井
						中原

北2ブロック



秋山	菅野	山田	奥橋	馬場	今野	信江	水野	定光	八木	安井
	矢部		北原		熊谷		鳴川		福田	
										渡邊

中ブロック



西村	高原	吉岡	杉原	森垣	橋本直	藤原	鳥越
	小林	岸本	澤谷	橋本隆	友田	中藤	延堂

東ブロック



	伊藤	山崎	有森	太田圭	高嶋	吉岡
石井		吉村	根木	太田澄	北川	祇園
	鳥居	小野田	水門	岡崎		高山

南ブロック



小川	竹信	那須	藤田智	平山	宮崎	名合	八田	岡本
				井上		小山	野崎	森垣
岸本浩	大西	吉田	三村	安東		岸本直	藤田明	久本
							怒田	

活 動 点 描

1 概 要

岡山市小学校長会は、市立小学校長85名、義務教育学校長1名、国立学校副校長2名、合計88名の会員で構成している。令和6年度は「新しい時代を創造し、未来社会に夢と希望をもち、たくましく生きる児童の育成をめざす小学校教育の推進」という研究主題で「学校経営の充実・改善のための力量向上」「小学校教育活動の充実」「将来を担う教職員の育成」「校長会としての活動の充実・精選」の4点を重点として、後述する6つの専門部で活動に取り組んでいる。また、その中の教育研究部には「学校経営」「教育課程」「人権教育」「特別支援教育」「生徒指導」「学校家庭地域連携」の6委員会があり、全会員がいずれかに所属して研修を深めている。

また、今年度は「指定都市小学校長会研究協議会」を岡山市で開催し、全国各地の指定都市の校長先生方と有意義な研究協議や情報交換を行うことができた。

2 校 長 会

(1) 定例校長会研修会（全会員出席）

4月・6月・7月・8月・9月・11月・1月・3月に開催。

〈主な内容〉

- ① 市、市教委、県校長会からの連絡
- ② 役員会、会長からの報告
- ③ 学校経営に関する諸課題の協議
- ④ 専門部、委員会、区校長会からの報告
- ⑤ 実践発表の事前発表による研修
- ⑥ 6委員会での研修
- ⑦ 外部講師による講演

(2) 定例役員会研修会

4月・5月・6月・7月・9月・10月・11月・1月・2月に開催。

〈主な内容〉

- ① 市、市教委、県校長会からの連絡
- ② 市教委関係課との協議
- ③ 定例校長会に提出する議案の協議
- ④ 区校長会、専門部の活動報告や提案

(3) 区校長会

市内を5地区（北区1・北区2・中区・東区・南区）に分け、年間7～8回開催。

〈主な内容〉

- ① 情報交換及び学校経営、学校間連携等に関する協議・運営
- ② 定例校長会や役員会で提案された課題についての協議・報告
- ③ 外部講師による研修や視察

3 研修活動

(1) 総務部

各専門部や委員会、区の活動の連携や調整、市教委との協議内容の確認等により、定例校長研修会の質の向上を図っている。

(2) 教育研究部

6委員会ではテーマを設定して、研修を深め、その成果を全体で共有したり、大会発表者の支援を行ったりしている。

(3) 学校経営推進部

学校管理に関する課題についての調査を実施し、その結果をまとめ、市教委への提言の基礎資料としている。

(4) 教育課題対策部

県校長会や指定都市研究協議会の調査の集計・分析を行い、本市の課題を明らかにしている。

(5) 人材育成推進部

人材育成のための調査を行い、定例校長研修会でのグループ研修や市教委等と意見交換する会議を実施している。

(6) 校外学習対策部

全ての小学校・義務教育学校が充実した校外学習を実施できるよう、実施方法や内容等の検討し、課題解決の方法を探っている。

(7) その他の活動

小・中学校長会と園長会の代表者会で、市教委への要望や質問をとりまとめ、市教委幹部との合同研修会で回答や説明を聞いたり、協議したりしている。その内容を定例校長会研修会で報告し、共通理解している。

加 賀 支 部



宇江 原田 三宅 大田 森延
金盛 光畑 菅野 草野

活 動 点 描

1 概 要

1 郡 1 町である加賀支部（吉備中央町）校長会は、9 小学校と 1 中学校の10校で組織している。学期 1 回は 4 ども園を含む校園長会を開催し、こ・小・中の連携を図っている。町教育委員会や岡山教育事務所との緊密な連携のもと、月 1 回の定例会を開催し、教育の資質向上や教育振興の充実・発展に努めている。

2 校 長 会

次のような内容で研修・協議・連絡調整を行っている。

- (1) 町教育委員会からの指示・伝達・指導
- (2) 学校経営・運営上の諸問題に関する協議
情報交換・連絡
- (3) 小・中別課題についての協議
- (4) 県校長会・小教研など各担当より連絡・
報告・協議・情報交換
- (5) 当面する教育課題の協議・情報交換

- ★ 10月町教委との懇談
(提案書提出)

3 研修活動

- (1) 町教育研修所

- ・運営委員会に所属し、各部の世話役として研究の推進役を務めている。
- ・全校長は運営委員としてども園・小学校・中学校の教育課題や諸問題について連携しながら研修を進めている。
- ・合同研究部会連絡協議会では、組織や基本方針の見直しを行い、町教育委員会と連携しながら町内の児童・生徒の学力向上に取り組んでいる。

(2) 校長会研修（教職員全員研修）

- ・教職員が、今日的課題を的確に把握するとともに、広い視野に立って適切な指導支援ができるように、指導者としての資質の向上を図る目的で、毎年夏季休業中に行っている。

本年度は、岡山大学准教授の中山芳一様に「これからの時代に確実に育てたい非認知能力」の講演をいただき、非認知能力についての理解を深めた。

4 そ の 他

本年度末 6 校の閉校をもって加賀支部単独の活動は終了し、令和 7 年度からは、赤磐・加賀支部として新たなスタートをきることとなる。

備前和気支部



羽 原	山 本	中 村	杉 本	朝 倉	木 村	高 坂 君
福 島	仲 原	高 坂 満	富 田	吉 田	早 瀬	

活 動 点 描

1 概 要

平成29年度に備前市と和気町の小学校長会が備前和気支部として統合して8年目である。備前市10校と和気町3校の13校で組織されている。市町ごとの活動が中心であるが、4月に支部総会を行い、必要に応じて情報交換を行っている。

2 校 長 会

備前市では、定例校長会と小学校長会（各年間6回）を開催している。定例校長会は、教育委員会からの指示・伝達が中心である。小学校長会は各校輪番で開催し、教育委員会からの指示等のほか、諸課題についての協議・情報交換などを行っている。

和気町では、校園長会と郡校長会（各年間7回）を開催している。校園町会は、教育委員会からの指示・伝達が中心である。郡校長会は、小学校3校と中学校2校で、教育委員会からの指示等のほか、小中連携や諸課題についての協議・情報交換などを行っている。

3 研修活動

備前市では、8月に3名の市内小中学校の校長が埼玉県で開かれたIB（国際バカロレア）ワークショップに参加し、IB教育の理念やリーダーに求められる役割について研修した。夏季休業中には教員向けのワークショップが市内で2日間開かれた。

備前市教育委員会では、昨年4月から、市内全小中学校でのIB教育導入に向けて取り組んでいる。今年度も校長会としては、IB教育の導入が備前市の児童生徒の育成や学校現場を取り巻く諸課題の解決につながるよう市教委と協議を重ねている。

和気町では、今年度「人権教育授業研究会」が発足3年目を迎え、全小中学校で公開授業を実施している。本会は、和気町独自の人権教育のカリキュラムに沿って人権教育を推進しており、町内どこの学校でも同じように児童生徒の人権学習を展開し、人権意識の高揚と課題解決の実践力の育成を図っている。

校長会としても、人権教育の在り方について研修を深め、各校で指導・助言をしている。

赤 磐 支 部



	桑	吉	鈴	松	片	浦
	田	幸	木	本	山	上
大		岸	岸	永	東	家
坂		根	本	井		森

活 動 点 描

1 概 要

赤磐市小学校長会は、小学校長12名で構成されている。また、赤磐市校長会としては、中学校長5名を合わせた合計17名で構成され、市内小・中学校の教育課題等について協議・情報交換をし、解決に向けて具体的な方策を話し合っている。

2 校 長 会

(1) 赤磐市校長会

年9回、赤磐市教育委員会主催で開催される定例校園長会の後に実施している。事前の幹事会で協議事項を絞り、中身の濃い話し合いになるよう工夫している。協議された内容を基に同歩調で取組を進め、小・中学校の連携強化に努めている。

(2) 中学校ブロック連絡会

義務教育修了までの15年間の育ちを見据え、幼こ小中が連携して指導・支援を行うために、必要に応じて各ブロック単位で開催している。

(3) 赤磐市小学校長会

奇数月に、市内各校持ち回りで開催して

いる。主に、授業参観、学力向上等の教育課題や人事上の諸問題についての協議・情報交換・調整等を行っている。

3 研修活動

(1) 校長会のモットー（行動指針）の設定

赤磐市校長会のモットー「非認知能力を基盤に、自立した学習者を培う」を掲げ、学校経営やAPプラン、校長会の研修会などを貫く指針としている。校長のリーダーシップのもと、市内の全教職員が同じ方向で実践を重ねている。

(2) 中学校ブロック研修会

各ブロックの教育課題に応じて、夏季休業中を中心に実施している。

(3) 校長・教頭合同研修会

毎年教頭会と共同で夏季休業中に実施している。

講演：「『児童生徒のためなら、忙しいのは仕方ない』を見つめなおす～子どもたちと教職員のウェルビーイングを大切にする学校づくり」

講師：一般社団法人ライフ＆ワーク代表理事 妹尾昌俊 氏

瀬戸内支部



小
崎

水
玉

岩
崎

田
中

山
地

恒
次

川
埜

大
嶋

平
井

活動点描

1 概 要

瀬戸内市校長会は、小学校長9名、中学校長3名の12名で構成されている。学校運営、学校教育に関する課題について情報交換や協議を行い、小中学校が一体となって活動している。

2 校 長 会

(1) 瀬戸内市校長会

毎月回開催される教育委員会主催の定例校（園）長会のあとに市校長会を実施している。小・中学校長会と小学校長会の2部構成で協議を行っている。また、市内校長共有フォルダを活用し、随時必要な情報共有や意見交換を行い、連携に努めている。

(2) 中学校ブロック校（園）長会

中学校区ごとに幼稚園長、小学校長、中学校長が集まり、中学校区としての連携を図っている。校種を超えて子どもの実態や成長にとって必要な手立てを話し合う貴重な機会となっている。各地区でコミュニティ・スクール」や「地域学校協働活動」に取り組んでおり、話し合いは地域とのつながりを見据えた

内容にも広がっている。

3 研修活動

(1) 校長・教頭合同研修会

○期日 令和6年8月8日

○場所 牛窓町公民館

○演題「教職員のメンタルヘルス」

講師：中国中央病院 加藤一葉先生

「瀬戸内市の観光資源を学びに生かす」

講師：市文化観光課 大谷博志氏

(2) 瀬戸内市教育委員会主催「次世代型教育実践研究事業」を活用しての研修

○期日 令和6年8月1日

○場所 各校の会場及びオンライン

○内容「次世代型教育の推進の視点を取り入れた学校経営」をテーマに、「特別支援教育」「道徳教育」「各教科教育」「ICT教育」の4分野について、幼・小・中の全職員がオンラインで参加して研修を深めている。また、同日午後、各中学校区ごとに校区の課題に沿った研修を実施している。

邑久：「LGBTについての講演会」

長船：「CS拡大熟議の会」

牛窓：「ESDについての講演会」

玉 野 支 部



竹 林 堀 川 淵 山 本 片 山 溝 口 石 部

栗 本 谷 三 宅 木 村 望 月 大 山 高 瀬

活 動 点 描

1 概 要

玉野市小学校長会は14校で組織されている。玉野市教育委員会主催による小・中・高等学校の校長が一堂に会する校長会が年に5回開催されている。この会では、市の教育施策や諸課題について協議し、相互の連携を深めることで、本市教育の一層の充実と発展に努めている。

2 校 長 会

今年度は新任校長2名、市外より転任校長1名を迎え、より連携を密にしながら、月1回、次のような自主研修活動を行っている。

- (1) 校長会の組織運営、相互研修
- (2) 学校経営についての情報交換
- (3) 代表者会、支部長会等の報告
- (4) 教育課題についての研究や情報交換

基本的に終業前2時間半程度の開催として、校長の働き方改革にもつながっている。短時間の中で集中して行い、情報の共有や課題への対応を協議することで、非常に有意義な会となっている。玉野市の喫緊の課題であ

る「学力向上」、「人材育成」などの課題に、校長がどのようにリーダーシップを発揮すればよいかというテーマで研修に取り組んだ。

また、今年度の中国地区小学校長会教育研究大会山口大会及び岡山県小学校長教育研究大会津山大会での研究発表に向けて、「新たなことにチャレンジし、たくましく生きていく子どもの育成」の発表題のもと、①他者とのつながり、②非認知能力の評価・活用、③その他の評価・つながりの取り組みについて、情報を共有し、「知性・創造性」についての発表内容の検討を行った。

3 研修活動

本支部においては、数年前から岡山県小学校教育研究会玉野支会に一本化して自主的に推進している。

1学期及び夏期休業中には、各教科・領域ごとに講師を招いての研修会や、教材研究及び指導方法の在り方について研修を行った。

2・3学期には、各部会において、研究授業を伴う研修会などを開催し、指導方法の改善について協議し、指導力向上に努めている。

倉 敷 支 部

倉敷東地区



藤野 三宅 井上 原 木谷
福永 乾 加 岸本 徹 渡邊 佐野 井上
誠 靖

倉敷西地区



福田 平松 山田 鮫島 高岡 小松原
片岡 紀 神原 妹尾 横溝 濱口 小原

倉敷南地区



水城 原田 服部 中桐 大内
日高 重松 洲脇 藤本 柴田

倉敷児島地区



田淵	中桐	河村	大森	萩原	小野
	星島	松山	内部	宮原	木村

倉敷玉島地区



山本	武政	平田	有森	矢吹
廣畑	三木	平松 雅	新谷	元長

倉敷船穂・真備地区



	角田	福永 陽	山下	小野
風早	平尾	石橋	河本	藤原

活動点描

1 概要

倉敷支部は六つの地区校長会で構成されている。会員は東地区11名、西地区12名、南地区10名、児島地区11名、玉島地区10名、船穂・真備地区8名の総数62名である。

2 校長会

(1) 全市校長会

4月12日（金）に総会を開催し、組織や運営に関する協議を行い、共通理解を図った。また、倉敷市教育委員会主催の校舎長会の閉会後に小学校長会を実施し、連絡事項の確認や協議を行った。

(2) 校長会会長会

全市会長、県副会長、六地区会長、庶務、会計の計10名により、毎月定例の校長会会長会を実施し、主要案件についての協議及び連絡・調整を行った。

(3) 地区校長会

校長会会長会後、6地区ごとに毎月定例の地区校長会（会場は持ち回り）を開催し、市全体に関する連絡、地区独自の問題、学校運営上の課題等について協議し、調整を図るとともに情報交換を行った。

(4) 理事・役員会

会長会役員10名に、五部長、県市理事、各種研究団体の長を加えて組織し、種々の重要事項について協議した。

(5) 五部会と部長会

会員は、研究部会・健康部会・人事給与対策部会・学校管理部会・修学旅行部会のいずれかの部に所属している。

各部会は、理事・役員会、総会で活動計画の承認を受け、部長を中心に独自の調査・研究を行うとともに、五部長会で連絡・調整を図った。

3 研修活動

研究部と当番地区が共同で企画運営に当たり、会員相互の研修に努めた。

(1) 第1回研修会

6月5日（水）にライプパーク倉敷において実施した。

・市校長会、五部会及び各種研究団体の活動方針・活動計画の連絡・協議等

・講演「価値構造を変える」

講師 カモ井加工紙株式会社

代表取締役 鴨井 尚志 氏

(2) 第2回研修会

11月27日（水）にライプパーク倉敷において実施した。

・市校長会、五部会及び各種研究団体の活動（中間）報告

・倉敷市教育委員会と市校長会との懇談会の懇談概要報告

・研修「役職定年後の働き方について」

講師 倉敷市教育委員会学校教育部

学事課長 倉本 英明 氏

・研修「学校に対する苦情・不当な要求への対応について」

講師 岡山県教育庁人権教育・生徒指導

課 生徒指導推進担当

副参事 和氣 史弥 氏

主 幹 平田 隆宏 氏

4 その他

(1) ブロック別協議会（倉敷ブロック）

7月30日（火）に、マービーふれあいセンターで倉敷ブロックの校長会支部代表・県校長会役員と岡山教育事務所との間で当面する諸問題について協議等を行った。

(2) 倉敷市教育委員会との懇談会

11月19日（火）に倉敷市小学校長会の代表者と倉敷市教育委員会の代表者で、倉敷市小学校教育の課題等について懇談会を行った。

浅 口 支 部



田
中

藤
本

小
野

山
下

在
間

土
屋

柚
木

原

三
浦

活 動 点 描

1 概 要

浅口小学校長会は、浅口市7名と浅口郡里庄町2名の小学校長9名で組織している。本年度は3名の新会員を迎え、諸教育課題について会員相互の共通理解を図っている。

2 校 長 会

(1) 教育委員会主催校長会

浅口市、浅口郡里庄町それぞれの教育委員会主催の小・中学校長会が毎月1回開催される。教育委員会からの指示・伝達に関する連絡調整、情報交換等を行っている。

(2) 定例自主校長会

浅口市、浅口郡里庄町の小・中合同の校長会を月1回程度開催し、諸課題解決に向けて意見交換や研修を行っている。引き続き、小学校長会を行い、県支部長会等の報告や学校経営上の諸課題に関する協議や情報交換を重ねている。

3 研修活動

(1) 県小教研浅口支会事業

支会事業の運営に携わり、各研究会で部長として指導・助言にあたっている。

研究発表会は、県小教研家庭科部会の指定も受け、10月18日（金）に里庄東小学校で実施（家庭科）した。また、各研究部会の会員研修は、8月1日（木）の統一研修日の他、各部会に応じて研修会を実施した。

(2) 自主研修

例年、校長会で計画実施し、実りのある研修となっている。本年度は、令和7年度の中国大会での実践発表に向け、経営ビジョンについての各校の取組について意見交換を行った。また、新しいデジタルアプリケーション活用に関する研修等に取り組んだ。

(3) 中国大会（山口）と全国大会（徳島）

には、代表がそれぞれ3名、1名参加した。

4 そ の 他

定例自主校長会では、働き方改革や各行事の見直しに関する情報交換、教育委員会や各種団体への依頼・申し入れの協議を重ねた。

令和7年度から義務教育学校である寄島学園が開校することが決定している。今後もそれぞれの学校の特色を生かしながら、浅口支部が一丸となって、地域の子どもたちの生きる力を育むために、校長会として尽力したい。

笠 岡 支 部



山
川

池
田

妹
尾

守
分

荒
川

坂
本

村
上

佐
野

川
上

佐
藤

中
山

徳
山

高
橋

田
井

活 動 点 描

1 概 要

笠岡市小学校校長会は、14名で構成している。また、市内のこども園・小・中の校園長28名で笠岡市校園長会を構成し、各学校園の課題解決に向けた取組を行っている。その他にも、鳥しょ部の小・中学校長5名が鳥しょ部校長会を組織して、独自の活動を行っている。

2 校 長 会

年6回、笠岡市教育委員会主催の定例校園長会が開催され、指示伝達事項についての説明等が行われる。私設の校園長会は、年間数回行い、諸連絡や協議を行っている。また、小学校長会研修会についても年数回開いている。

3 研修活動

（1）小学校長会研修会

2か月に1回程度開催し、諸課題解決に向けて、協議及び情報交換を行っている。各学校では、それらを踏まえ、実態に合わせて行事等を実施した。

（2）校園長会研修会

毎年1回程度の校園長会研修会を実施している。本年度は、笠岡市危機管理部危機管理課を講師に招き「笠岡市学校園における災害時の危機対応」というテーマで研修を行った。学校園の災害時の危機対応について、具体的な助言を得ることができた。また、学校園が避難所指定された場合の対応についても共通理解をすることができた。

（3）笠岡市教育研修所

定例部会（各教科の部会13部会と就小中合同部会3部会）と特別部会（生徒指導部会など6部会）で構成されている。校長は、いずれかの部会の顧問として所属し、指導に当たっている。

就学前教育と小学校教育の連携、小中一貫教育推進の観点から、本年度より定例部会は、小中の合同部会を基本とした。また、所属する教職員の自主的研修を進めるために、各教職員が個人テーマを設定して取り組むように計画を立てて進めた。

小 田 支 部



荒
川

風
早

村
木

平
田

藤
本

片
岡

徳
山

活 動 点 描

1 概 要

小田郡小学校長会は7名で構成している。また、小学校長と2名の中学校長で小田郡校長会を運営している。郡内の学校教育の現状や課題等について協議・情報交換を行い、共通理解を図りながら学校教育の充実・発展に努めている。

2 校 長 会

矢掛町教育委員会共催の定例校長会が開催され、指示・伝達・協議を行っている。町の重点施策について共通理解をし、ベクトルを揃える機会となっている。学校教育課だけではなく、随時必要に応じて、町の他部署（こども未来課・総務防災課）や町内の高校（矢掛高校）も参加し、連携を図っている。

3 研修活動

（１）校長会での協議、情報交換

- ・不登校対策・生徒指導について
- ・学力向上について
- ・３～６年生の合同授業や連合で行う集

団宿泊的行事について

- ・働き方改革や一人一端末の活用について 等

（２）小教研小田支会の各部会の顧問を各校校長が分担し、指導・助言に当たっている。今年度は特別の教科道徳・国語・算数を重点教科とし、授業研究を中心に研修を深めた。また、小教研には学年部も置き、その顧問を務め、合同授業についての相談や学年間の意見交換の場だけでなく、人材育成の場としても活用している。

（３）やかげ小中学校長研修会を月１回開き、合同授業や連合で行う行事の計画、小中連携、学力向上、当面する諸課題等について協議を行った。行事の精選や働き方改革・若手の育成等の情報交換が大変有意義だった。

4 そ の 他

小中学校長会で各学校の要望事項を取りまとめ、町教育委員会に提案することで、次年度の学校運営に反映できるようにしている。

井 原 支 部



永尾 倉田 佐藤 磯田 黒木 柳本
英
斎藤 平木 佐藤 小田 三宅 森川 高橋
朗

活 動 点 描

1 概 要

井原市小学校長会は、校長13名（幼稚園長兼務3名）で構成している。また、市内の中学校長5名と幼稚園長4名を含めた22名の校園長で井原校園長会を組織し、各学校園の課題解決に向けた取組を推進している。井原支部はその中の小学校部会にあたる。事務局、専門部（総務・研修・調査・会計）を設け、活動を行っている。

2 定例研修会

井原校園長会では、毎月定例の会（8月を除く）を設定し、井原市の教育に関わる諸問題について議論したり、情報共有を行ったりしている。市の中心部にある「井原文化財センター古代まほろば館」で常時開催している。全体会、幼稚園・小学校部会、中学校部会に加え、中学校ブロック別の部会を開催し、情報交換や研修を行っている。

主な内容は次の通りである。

- （1）教育委員会からの指示・伝達
- （2）県校長会支部長会等の報告
- （3）学校経営上の諸問題について
- （4）会員相互の研修

3 研修活動

- （1）井原市学校教育研究会（小教研）

本研究会の運営に携わり、各研究部会で部長として指導・助言にあたっている。

- （2）小学校長会での研究

- 令和7年度県小学校長教育研究大会倉敷大会に向けた取組

「学校教育の充実を図るための評価改善」

- 小学校長会研修会

- 諸行事の実施について

- （3）研究発表会（井原市教委指定）

- 10月18日 西江原小学校「算数科」

4 その他

教育予算に関する要望事項を総務部がとりまとめ、井原市教育委員会に要望した。

総 社 支 部



志 田 石 井 池 上 北 川 高 杉 平 田 土 谷 竹 本

藤 本 中 司 真 壁 難 波 小 橋 岡 本

活 動 点 描

1 概 要

総社支部校長会は、小学校長13名、中学校長3名、義務教育学校長1名の計17名で組織している。今年度、小学校長は1名の新会員を迎えた。市の学校教育の現状を把握し、課題解決に向けて様々な取組を行っている。

2 校 長 会

(1) 定例校長会

原則として月1回開催。小学校と中学校が合同で開催。内容は、教育委員会からの指示、連絡、説明等や教育推進上の課題についての協議等。今年度は、GIGAスクール構想についての協議や各学校の特色ある取組について情報共有した。

(2) 校長会協議会

原則2か月に一度の開催とし、各学校からの情報交換を行いながら教育課題について協議する中で意思疎通を図りながら、様々な課題に対処している。

小・中に分かれての学校種別連絡会では、学校行事の持ち方等について共通理解を図った。

(3) 中学校区別校長会（管理職部会）

中学校区によっては管理職部会と呼んでいる。園長、小中学校長の参加を得て、中学校区ごとに、定期的に開催する会である。主な活動としては、次のとおりである。

- 各校園の情報交換
- 教育課題の把握と改善策の検討
- 幼小中の連携 等

3 研修活動

(1) 総社市教育研修所（小・中教研）

校長は、各班の班長を務め、県と連携を図りながら運営にあたっている。

(2) だれもが行きたくなる学校づくり

子どもたちの良好な人間関係づくりや互いを認め合うことを大切に始まったこの取組も14年目に入った。昨年度より新たなステージに入り、推進委員やシニアリーダーを中心にサテライト研修等を実施している。

(3) その他

来年度教育予算にかかわる各小中学校の要望を教育委員会に提出している。

高 梁 支 部



矢 田 部		山 本	石 原	月 本	窪 津
	山 崎		志 田	片 岡	瀧 川
河 原	日 名		菅 野	難 波	福 田

活 動 点 描

1 概 要

高梁支部（高梁市小学校長会）は、小学校長14名（幼稚園長兼務2名）で組織され、県小学校長会や県小学校教育研究会等の議題等について協議や研修・研究を進めている。

また、高梁市幼・保・こ園長会、中学校長会とともに高梁市校園長会を組織し、総務部・管理部・研修部・福利厚生部（休部中）の部会で活動を行っている。

2 校園長会

（1）定例校園長会

高梁市教育委員会主催の会で、定期的で開催している。教育委員会主導での協議・連絡が行われる。

（2）自主校園長会

市全体の課題や要望事項について情報交換をしたり協議をしたりしている。教育予算や施設整備の改善等については管理部が中心にとりまとめ、市長・議長・教育長等へ陳情を行っている。

（3）自主小学校長会

横のつながりを大切にしながら、日々

の諸課題についての協議や情報交換を行っている。

（4）中学校区校長会

6つの中学校ブロックごとに行い、諸課題について幼小中の連携に重きをおきながら情報交換を行っている。

3 研修活動

（1）校園長会研修会

校園長会研修部が中心になり、本年度は「教職員の働き方と社会保険」をテーマに、教頭会と合同で8月に講演会を行った。

（2）小学校長会

研究推進部が中心になり令和4年度より「学び合い ONE TEAM 高梁市小学校長会」をめざす姿として研究を進めた。令和6年度の県・中国地区小学校長教育研究大会において「自立と共生」の部会で、特別支援教育の推進に果たす校長の役割を中心に、市内各校校長が連携をしながら取り組んだことを発表した。このことが校長の資質向上にもつながった。

新 見 支 部



田 原	竹 元	船 越	上 田	定 岡	黒 川	藤 原	正 村
池 田	井 石	重 村	田 邊	小 松	岡 本	棟 森	

活 動 点 描

1 概 要

新見市小学校長会は、小学校15校、15名の校長で構成している。会の活動を円滑に、効率よく行うため、総務部・研修部・学校管理部・行財政部の4つの専門部会で組織しており、会の運営はもとより、学校経営上の課題や当面する諸課題等についての研修や情報交換等を行っている。

2 校 長 会

(1) 定例校長会（新見市教育委員会主催）

小・中学校長を対象に毎月1回程度開催される。教育委員会からの指示・連絡が主であり、学校経営や学校運営の柱が示される。

(2) 小学校長会議・研修会

4月に総会を行い、役員の選出、事業・予算等の審議の他、市全体で行う行事や学校行事等の実施について協議した。年間8回の会議を予定し実施する。

(3) 中学校区校園長会議

5つの中学校区ごとに、内容によってはこども園園長、保育所所長を交えて教育課題について情報交換や協議を行っている。

3 研修活動

(1) 研修会

新見地区のミドルリーダーの育成のため、現在市内の小学校のミドルリーダー8名に学年別研修の企画・運営を任せ、8月に研修会を行った。参加者は授業のコツや困り感を共有し、有意義な時間となり、概ね満足した研修になった。また、研修と親睦を深めるために、研修視察旅行を行っている。

(2) 横の連携

学校行事や研修会等の開催について協議し、新見市の小学校としての共通した動きや考え方について確認し、なるべく差異が出ないように配慮した。

(3) 教育長との懇談会

行財政部が中心となり支部の教育課題等についてのアンケートを実施した。その結果人的配置、通学路の整備、予算配分、働き方改革について要望した。

4 小中連携

(1) 中1ギャップ解消事業

教育委員会と共同で、中学校区ごとに集まり体験授業や体験活動を行った。

(2) 意見交換

小中学校長が意見交換や親睦を行った。

津 山 支 部



	井上	小椋	森本	杉本	鹿島	田村	山根	高岡
建元	宗森	野村	小池	高橋	植月	溝口	立石	高山
木村	溝口 雄	高畑	宗森 研	植月 美	松本	神尾	影山	畝本 河本
	健							

活 動 点 描

1 概 要

津山支部は、新任8名を迎え、27名の小学校長で構成している。津山市教育委員会の指導の下、中学校長会とも連携し、津山市の教育の充実と発展に努めている。特に、今年度は、岡山県小学校長教育研究大会（津山大会）に向けて、その準備に鋭意取り組んだ。

2 校 長 会

津山市では、毎月定例校園長会議が開催され、津山市教育委員会より指示伝達が行われる。その後、小・中学校長研修会、更に小学校長会研修会を開催し、校長どうしのつながり、連携を深める重要な機会となっている。

（1）小・中学校運営委員研修会

毎月の校長会研修会に向けて、事前に運営委員研修会（小・中会長、副会長、事務局長、事務局次長が参加）をオンラインで開催し、議題や研修内容等の打ち合わせや行政関係や他団体との調整を行っている。

（2）小・中学校長会研修会

小・中学校共通の課題について協議し、情報交換等を行っている。予算や人事に関

する要望を取りまとめて、教育委員会と改善に向けた話し合いも行っている。更には、津山市教育委員会からの諮問を受けての協議や提言、情報交換を行っている。

（3）小学校長会研修会

県小学校長会や美作地区小学校長会の報告や連絡、運営委員会や各担当部会などからの報告・調整などを行っている。

（4）中学校ブロックの小・中校長連絡会

市内の8中学校区で（2中学校区は合同）定期的に開催している。学力向上や生徒指導、特別支援教育等について、効果的な小中連携の在り方を協議している。

3 研修活動

（1）学校経営委員会

全員が5つの専門委員会（①現職教育②生徒指導③教育課程・学力向上④特別支援教育⑤小中連携・ふるさと学習）に所属し、研修や視察で学ぶ取組を行っている。

（2）各種関係団体との連携

市PTA連合会や教育関係の会議、研修会に校長会の担当者が参加し、情報交換や活動の周知を図りながら、連携を進めている。

苦 田 支 部



西村 畝本 谷口 勝田

影山 近藤

活 動 点 描

1 概 要

苦田支部（鏡野町）は、令和4年度末で香北小、上齋原小、富小が閉校となり令和5年度より5校の組織になっている。鏡野町教育委員会の指導の下、中学校長会・教育関係機関と緊密に連携して教育の充実、発展に努めている。

2 校 長 会

毎月1回の定例校長研修会では、町教育委員会より教育課題について小・中学校の校長6名に指示、伝達が行われている。

町校長研究協議会を各校持ち回りで開催し、各校の授業参観や情報交換、連絡調整、教育課題についての協議を行っている。

その後、小学校長会研修会を開催し、支部内の活動及び美作地区・県小学校長会等の活動について報告を受け、協議を通して支部の方向性の確認や共通理解を図っている。

3 研修活動

（1）小学校長研究協議会

規模の異なる各小学校の様子・取組を交流し、支部としての課題を検討している。また、来年度の県小学校長研究大会の提案に向けて

共通理解を図った。

（2）小中学校研修会

「学力向上」「生徒指導」を柱に、小学校5校と中学校1校が連携して取組んでいる。

学力向上推進委員会では、町教育委員会と連携し、全国・県の学力テストの分析結果を基にした取組やICT活用の研修を行い、実践を進めている。

生徒指導連絡協議会では、保育園・幼稚園・こども園とも連携し、好ましい生活習慣の確立や落ち着いて生活できる環境作りに向けて、実態や取組等について情報共有している。

（3）鏡野町教育研修会

町内保幼小中教職員が、「HEAD、HEART、HANDの確かな成長をめざし、一人一人が輝く、鏡野の子を育成しよう。～15年間の子どもたちの『育ち』を共有しよう」をテーマに、授業研究を軸として本年度は14部会で、研修を行っている。

（4）情報交換

町ネットワークシステム上の共有フォルダやチャットを利用して、各校の対応等について情報交換を迅速に行っている。

久米支部



新免

近藤

秋元

藤原

小川

山本

池上

活動点描

1 概要

久米支部は、美咲町4名（義務教育学校長2名を含む）、久米南町3名、計7名で構成している。今年度は新会員を3名迎え、教育諸課題について研修および情報交換を行っている。郡内の各小学校の状況は様々であるが、校長会は、情報交換や取組についての交流ができる貴重で重要な場になっている。

2 校長研修会

毎月1回、教育委員会からの指示伝達の会が各町で行われている。久米郡小学校長研修会は、別日に会場を各校持ち回りにするとともに、「学校や地域を知ろう」という意識をもちながら、以下の内容で会を実施している。

- (1) 県支部長会、美作地区小学校長会報告
- (2) 各種団体に関する連絡・協議
- (3) 当面する諸課題
- (4) 会場校の授業参観・学校経営（要覧とAP、資料など）・実践の報告等
- (5) その他 県大会発表内容検討・情報交換など

岡山県小学校長会研究大会津山大会の「学

校経営」の分科会で発表する内容について検討した。「心理的安全性」をキーワードにして、支部内の各校での実践や課題などを共有し、研修を行ってきたことは、学校経営や人材育成等を行う上で財産になっている。

今年度は、校長研修会ごとに、会場校の授業参観を行っている。学習環境整備やICTの利活用の状況等、参考になることが多く、刺激を受けている。支部には2つの義務教育学校があり、9年制の学びの良さも実感できた。

また、年間2回の美咲町及び久米南町の教育長講話を定例校長会で計画的に行っており、視野も広がり、見識も深まっている。

3 研修活動

久米郡夏期教育講演会

今年度は、ノートルダム清心女子大学 青山新吾先生をお招きし、「インクルーシブ教育を進める～現状と課題 そして今できること～」という演題で講演会を行った。

4 その他

来年度は、苫田支部と統合して、「久苫支部」となる。役員会や全体会をもちながら、準備を進めているところである。

真 庭 支 部



岡本 中井 山田 山本 美若 水田 木下 難波 唐木 木村 白石 江原 岡崎 池田 杉本 小林 西村 林 木田 古山 杉山

活 動 点 描

1 概 要

真庭支部は、真庭市（20校）と真庭郡（1校）を合わせた21名の小学校長で構成。教育の現状や学校運営上の課題について共通理解を深めている。津山ブロック各支部や教育委員会とも連携しながら情報交換や課題解決を行い、真庭支部の学校教育の充実・発展に努めている。

2 校 長 会

（1）市（村）校長会

真庭市・新庄村それぞれの教育委員会主催の小中学校長会が開催され、教育委員会からの指示伝達、説明等が行われる。

（2）支部定例研修会

月1回の定例研修会では、県や美作地区の活動報告、諸課題への協議や情報共有を行っている。事前の理事研修会はオンラインで行い、内容確認や連絡調整を図っている。

3 研修活動

（1）研究指定校実践発表

真庭市学力向上推進事業研究指定校より2校が実践発表。研究内容と「校長の役割」を

学んだ。1月『自らの考えを伝え合い、互いに深め合える児童の育成』月田小学校長。2月『「見つける力」「あらわす力・つくる力」「伝える力・つながる力」を育てる授業づくり』檜邑小学校長。

（2）夏季研修会

「蒜山の平和学習」をテーマに、蒜山高原の戦争遺跡を地元ガイドと巡る研修視察を実施。蒜山郷土博物館の前原茂雄館長より、戦時中の戦車や砲弾を用いた大規模な模擬戦争、射撃や行軍等の厳しい訓練の様子等を伺った。地元の戦争遺跡が、平和を学ぶ教材になる可能性を感じた研修であった。

（3）教育長との懇談

11月の定例研修会では教育長をお招きし、諸課題について直接語り合う会を設けた。有意義かつ和やかな懇談会となった。

（4）研修報告

全連小徳島大会、中国大会参加者が研修報告を行い、学びを共有していった。

（5）研究大会への参加・協力

県教育研究津山大会、全国へき地教育研究岡山大会に、全員で運営協力していった。

美 作 支 部



櫻井 延東 岸本 高本 美若 春名 竹内
熊谷 中尾 加治 御藤 金島

活 動 点 描

1 概 要

美作支部は、美作市8校、勝央町2校、奈義町1校、西粟倉村1校を合わせた12校の小学校長で構成している。

学校経営上の課題やこれからの教育の方向性、諸課題等についての研修や情報交換を行い、学校力や校長の学校経営力の向上に向けて、課題意識を共有しながら意欲的な取組を展開し、美作支部の学校教育の充実・発展に努めている。

2 校 長 会

支部内をA～Eの5つのブロックに分け、年間5回程度の研修会を持ち回りで開催している。(本年度は開催回数を減)

また、R7年度の県・中国大会の分科会での提案に向けた共同研究も進めてきた。

さらに、県や美作地区校長会の活動等の情報共有を行うとともに、各市町村間の情報交換による連携した取組を行っている。

3 研修活動

(1) 支部研修会

4月 研修計画の立案

組織・部会の構成

8月 県・中国大会に向けて

学校経営上の諸課題について情報交換

1月 県・中国大会に向けて

県支部長会報告

次年度教育課程についての情報交換

3月 まとめ、次年度の組織等の検討

(2) 令和7年度の分科会提案に向けて

県・中国大会における「学校安全」分科会の提案に向けて、研究推進部を中心に研究が進んでいる。今後さらに、研究を深めていく。

4 その他

- 美作支部教育研修会との連携
- 教育予算等に係る要望活動
- 美作地区小学校長会研修会への参加
- 県小教研美作支会研修会の開催・連携